



「地域学校協働活動だより」は枕崎市のホームページにも掲載されています。QRコードやパソコンで検索して、カラー写真付きの記事をご覧ください。

～講演とフィールドワークで 「郷土について学ぶ」～ 立神中学校

立神中学校1年の総合の時間で「郷土について学ぶ」の授業があり、市の文化財保護

審議会委員の牛山好治さんが、学校での講演とフィールドワークの現地説明を行いました。

5月25日の講演では「枕崎の歴史七不思議」と題して、枕崎と南方の島々のつながりを中心に話をされました。松之尾遺跡で発見された「ゴホウラ製貝輪」や立神中学校には縄文時代の住居跡が残っているという話をすると、生徒たちは熱心にメモを取りながら話に聞き入っていました。

6月1日のフィールドワークでは、午前中に硫黄山岩崎寺跡を見学して、枕崎と硫黄島のつながりを学習し、火之神公園での昼食後には、「山幸彦（やまさちひこ）像」の前で火之神の伝説や枕崎のシンボルである立神岩の説明がありました。

生徒たちはさらに郷土学習の活動を続けます。今後はグループに分かれてテーマを決め、調査・研究活動を行って7月中に学習成果の発表会を行う予定です。



5月25日の立神中での講演の様子

～作品を見て触って 芸術に親しみました アートのまち「まくらざき」～ 枕崎小学校

枕崎市には、市役所通り・駅通り・中央通りなどに100基の立体作品が設置され、まちの通りが「青空美術館」になっています。



過去には「風の芸術展」、現在は「国際芸術賞展」を開催しており、芸術文化の風薫るまちです。

6月1日には、枕崎小学校の3年生がアートのまち「まくらざき」の授業を行い、3グループに分かれて市役所通り・駅通りの作品を鑑賞しました。南浜館職員が各グループに付いて説明を行い、子供たちは立体作品を見て触って、体全体で芸術を感じていました。

その後全員で南浜館に移動して職員から南浜館の説明を受け、南浜館周りの立体作品を鑑賞しました。

別府中学校で5月21日に鹿児島水産高校の「どこでも授業」があり、1年生が「旨みについて」と「さつまあげの作り方」を2時間の授業で学びました。

～鹿児島水産高校が「どこでも授業」 「旨み」について学びました～ 別府中学校

1時間目の「旨みについて学ぼう」では、味覚として感じる五つの味「甘味」「塩味」「酸味」「苦味」「旨味」の識別テストを行い、生徒たちは「水」だけの3つのコップを加えた8つのコップで味覚の識別テストに挑戦しました。普段、濃い味に慣れているとなかなか正解できないこのことで、全問正解者は22人中1名だけという結果でした。



また、「ダシ（旨味）」を加えると、少しの「塩味」でもおいしく感じることを「味の相乗効果」として実感していました。2時間目の「郷土料理のさつまあげを作ろう」では、水産高校の先生と別府中出身の食品工学科1年の福元君が「魚のすり身」から「さつまあげ」を作る実演を行いました。

ここで、授業の中で出てきたクイズです。「さつまあげ」と「かまぼこ」と「ちくわ」は、同じ材料で「魚のすり身」から作られますが、違う製品になる理由は何でしょう？

正解は、調理方法の違いです。「魚のすり身」を揚げると→「さつまあげ」、蒸すと→「かまぼこ」、焼くと→「ちくわ」になります。

～認知症キッズサポーター養成講座 市の包括支援センターが授業～ 桜山小学校

桜山小学校では6月16日に「認知症キッズサポーター養成講座」

の授業があり、4年生11人が認知症に対する理解を深めました。

市の包括支援センターが取り組んでいる事業で、「認知症ってなあに？」という副読本を配布し、職員がスクリーンを使って説明して子供たちに問いかけると、活発に発言が飛び出していました。

認知症のおじいさんがいる家族のアニメを見た後では、認知症の人が失敗しても「大丈夫だよ」とわかってあげることの大事さを学びました。

講座を受けた後には認定書とオレンジリングを授与され、全員が立派な「認知症キッズサポーター」になりました。



学校応援団ボランティア 募集中！ 詳しくは 生涯学習課まで TEL76-1286